

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4691400032
法人名	株式会社 ケイシン
事業所名	グループホーム たるみず太陽の家
訪問調査日	平成 21 年 11 月 16 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4691400032
法人名	株式会社 ケイン
事業所名	グループホーム たるみず太陽の家
所在地	鹿児島県垂水市浜平字高尾ノ下2189-6 (電話) 0994-32-5030

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年11月16日	評価確定日	平成21年12月31日

【情報提供票より】(平成21年11月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,800 円	その他の経費(月額)	9,300 円 (水道光熱費)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	860 円	

(4) 利用者の概要(11月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沖縄徳洲会垂水徳洲会病院 ・ なぎさ歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道220号線沿いにあり、海に面して住宅や縫製工場、畑が広がる中にホームが開設されている。ホームの前には同法人が所有する農地が広がり、種まきから収穫までを利用者が見守っている。管理者は園芸体験(自然とのふれあいと農作業)を通して、利用者のリハビリ、食育、地域とのコミュニケーションに役立てたいと思い、利用者には、収穫や収穫後の野菜の手入れなどを行なってもらっている。開設2年目を迎え、当初の職員と入れ替わりもあったが、困難な事例にも根気良く誠意を持った対応をすることで問題が解決の方向に向かいつつあり、今後の取り組みが期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目は4つあり職員の異動等による影響への配慮で、去年は職員の離職や異動が多くあったが、この1年は殆ど馴染みの職員のケアである。職員を育てる取り組みは、ホームでの研修の他連絡協議会や垂水市の勉強会など積極的に参加している。災害対策は地域の協力体制作りについて取り組み継続中である。居心地よく過ごせる居室の配慮では、契約時に家族に使い慣れた物を持ってきて頂けるように説明している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前管理者からの引継ぎ時に外部評価の件が漏れていたため、自己評価に取り組む時期も遅れたため、前回の評価表を参考にしながら介護主任と二人で話し合い作り上げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は定期的に、家族、地域住民、市職員、包括職員、法人代表などが参加し開催している。事業所の便りを資料にして活動報告、利用者の状況報告後に参加者の意見交換を行なっている。外出傾向にある利用者があるため、警察署からも来て頂いた時に、国道が近く危険であるので玄関だけでなく門にもセンサーをつけた方が良いのではという意見を頂いたり、公民館長から地区の行事情報と参加のお誘いを受けるなど、運営に反映できるように取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見や苦情、要望を表せる機会は、年2回の家族会や運営推進会議、意見箱、面会時等であり、苦情受付委員に第三者委員を立てていることも説明している。個人的な要望等は電話や面会時が多く、病院受診後の職員の情報共有のあり方についてなど、出された意見、要望は記録し職員が共有すると共に話し合い、家族にも報告し話し合う時間をとっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地区の奉仕作業や運動会、おろごめ祭り、敬老会にも参加している。三味線や大正琴のボランティアや老人会でのホーム見学なども受け入れている。日頃から地域の方とはお付き合いがあり、散歩時には挨拶を交わしたり野菜を頂いたりしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書には法人の「地域交流を取り入れ自立支援を目指します。」と地域密着サービスの理念が記載されている。玄関には法人代表の高齢者介護に対する熱い思いを言葉に表した「愛の誓い」が掲げられている。	○	法人全体の理念と法人代表の思いを大切にしながらも、たるみず太陽の家として、地域密着型サービスを意識した独自の理念を職員全員と話し合っ作られることを希望します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は法人の理念よりも「愛を持って支援する」愛の誓いに対する意識があり、利用者に声かけ寄り添い、楽しんでもらえるように支援することを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の奉仕作業やお祭り、運動会、敬老会などに参加している他、近隣の方々とも交流があり野菜を頂いたりしている。地域ボランティアの受け入れもあり、三味線、大正琴など楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前管理者との引継ぎ時に外部評価の件が漏れていたため自己評価の取り組む時期が遅れ、前回の自己評価を参考にしながら、介護主任と管理者でまとめている。	○	職員全員が自己評価を行なう意義を理解し、ケアの振り返りの機会となるように全員で取り組みができるように工夫されることと、評価の改善点も職員と話し合い、記録に残しながら質の向上に向けて取り組んでいかれることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に年6回行われている。事業所の活動報告を写真入りの便りを資料にして行い、利用者の状況説明後に意見交換を行なっている。公民館長から地域の行事情報を得ると共に、行事への参加のお誘いを受けるなどサービス向上に繋げている。家族の参加が不定期であるため参加呼びかけの工夫を期待します。		

鹿児島県 グループホーム たるみず太陽の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、出向いて行って利用者についての相談や情報交換を行なっている。また、市と契約を結びホームを地域の災害時の避難場所として提供している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「たるみず太陽の家便り」は、1ヶ月の活動の様子を写真入りで伝えている他、翌月の行事予定、職員の異動等も合わせて記載し家族に送付している。健康状態は面会時に詳しく伝え、金銭出納帳も確認しサインをもらっている。遠方の家族には、出納帳のコピーを送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、行事にあわせ家族会議の場をもっている他、意見箱や苦情相談第三者委員があることを伝えている。個人的な意見や要望は面会時に多く、病院受診後の職員の情報共有について、などの意見を運営に反映できるように話し合い、結果を家族に伝えると共に話合う場を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年の離職はなく、法人内異動があっただけで、馴染みの職員によるケアが行なわれている。管理者は離職を抑えるために、職員間のコミュニケーションを大切にし急な勤務変更にも対処できるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回行うホーム内のミーティングで、必要な研修を行うと共に、垂水市のグループホーム数箇所と連携し2ヶ月に1回の勉強会に参加している。また、職員の資格取得に向けた研修に参加できるように配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区グループホーム連絡協議会に加入し、勉強会や交流会に参加している他、同法人内のグループホームとの利用者を含めた交流会や3ヶ月に1度の職員交流会にも参加しサービスの質を向上させるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談が病院や施設にいる方の場合はこちらから会いに行き、自宅からの時は必ず本人と家族に見学に来てもらい一緒にお茶を飲むなど雰囲気に馴染んでもらうようにしている。入居後は面会を多くしてもらい家族の協力を得ながら、馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農作業を共に行なう中で、野菜の育て方、配水の仕方、種子の取り方、市場へ出荷できる見分け方などを教えてもらった時は感謝の言葉を伝えるようにしている。一緒に過ごす中で、利用者から労わりや励ましの言葉を頂き支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりの中で、傾聴することを大切にしており、会話からその思いを把握し、気づきを連絡ノートに記入したり、申し送りに出し合っている。思いを言葉で表せない方の把握は、状態をよく観察することを心がけ家族の面会時に確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回のミーティングで話し合った、利用者の気づきを介護計画の参考にし、担当者会議では、本人や家族の希望や意向を確認し、医師や看護師の意見も参考にしながらより良く暮らすための計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアプランに沿った個人表を参考にしながらモニタリングを行い、6ヶ月ごとの見直しをしている。急変や退院時などには、家族や関係者と話し合い新たな介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、看護師による健康管理を行っている。家族からの要望があれば病院受診に付き添ったり、墓参りや買い物、知人宅訪問などの外出支援、外泊支援時はケアの注意点や薬の説明を家族に行なうなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続して利用している。定期受診は家族に付き添ってもらいが、難しい場合には職員が同行することもある。受診時は適切な医療が行われるように情報を提供し、受診後は情報を共有できるように職員、家族と連絡をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し家族に説明すると共に同意も得ている。重度化した場合、本人・家族の希望があれば事業所で看取りを行うことができるが、主治医を交えて関係者と話し合っで判断していくことを確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には、馴染みの言葉と馴れ合いの言葉についての違いを説明しているが、言葉遣いで気がついた時には指導し話し合うようにしている。市主催の個人情報についての勉強会に出席し伝達講習を行い、記録物の管理も適正な場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態に合わせ、起床や就寝、食事、入浴などそれぞれのペースを大切にしている。農作業の手伝をしたり、買い物に行きたいなどの希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は食事当番の職員が、利用者に希望を聞いたり摂れた野菜や頂いた野菜を中心に立てている。利用者は、野菜の下ごしらえやお盆拭き、テーブル拭きなどそれぞれの力量に応じて手伝いに参加し、食事時間はBGMを流しゆっくり楽しめるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回の午前中を基本としているが、利用者の状態に応じて対応できるようにしている。夫婦で入所の方は、拒否する夫を促し、背中を洗ってあげるなど妻の協力を得ている。また、使用済みのお茶の葉を湯舟に入れるなど入浴を楽しめるように工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の職歴や趣味などを活かし、エレクtoonや民謡を披露してもらったり、生活歴から洗濯物たたみやテーブル拭き、農業指導などの役割をしてもらい、マイクロバスで全員で出かける買い物、外食の他、四季を通じた行事で楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日にはウッドデッキに出てお茶をしたり、庭の畑の手入れ、水やり、近辺へ散歩に行ったりしている。また、法人内の事業所と合同で行なっている、毎月のリハビリ踊り、音楽クラブ、買い物など希望に沿って支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。帰宅願望の利用者に対していろいろなケアを試みたが解決できず、国道が近いこともありセンサーをつけて対応している。外に出て行かれた場合には、警察や近隣の方々の協力が得られるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	出火場所を指定した避難訓練を毎月自主的に行なっているが、消防署指導はまだ行われていない。	○	職員は、毎月の自主訓練により防災意識が高められているので、さらに消防署の指導を受ける事でより良いアイデアや方法を学ぶ機会を持つ事を希望すると共に、地域の協力体制が得られるように働きかける事を希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量については、チェックし記録されている。食事制限のある方には、医師の指示を受けて提供している。栄養については、栄養士を招いて勉強会を行うなど職員も気を配っている。食事形態は個人に合わせ、体重測定を毎月1回行なうことで状態変化に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には職員紹介の写真が貼られ、季節の花が飾られている。天井が吹き抜けで明るく、リビングからウッドデッキに出られ、芝生の庭や菜園にも行ける。庭を眺められるように大きなソファも置かれている。床はクッションフロアで足にやさしいが水が掛かるとすべり易いので気をつけている。対面式の台所からご飯の炊ける匂いや、包丁の音が聞こえ家庭的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベット、ダンス、洗面所が備え付けられ、トイレが付いているのが2部屋ある。衣装ケースやポールハンガー、椅子、シルバーカーなどが普段使っている物の他、大切にしている家族の写真やぬいぐるみなどが持ち込まれている。		